

## 母親のヘルスリテラシーに関連する社会経済的因子と情報源の検討

研究協力者 佐々木 溪円（実践女子大学生生活科学部）  
杉浦 至郎（あいち小児保健医療総合センター）  
研究分担者 山崎 嘉久（あいち小児保健医療総合センター）

〔目的〕 母親のヘルスリテラシー（HL）と関連する社会経済的因子や健康に関する情報源等について検討し、母子保健における健康増進施策立案に資すること。

〔方法〕 2019年12月から2020年2月に愛知県内A保健所及びB保健所管内10市町において、3～4か月児健診を受診した児の母親に対して、無記名自記式質問紙調査を行った。調査項目は、母親の基本属性、主観的経済状況、健康情報の情報源と信頼度及びHLとした。HLの評価は、一般市民向けの伝達的・批判的HL尺度を採用した。HLとその他の調査項目との関連性は、HLを従属変数とし、社会経済的因子、情報源、情報源の信頼度を独立変数とした多重ロジスティック回帰分析で評価した。

〔結果〕 3～4か月児健診を受診した児の母親1354人から、1136件の有効回答を得た。HL得点は、中央値3.8（範囲1.2-5.0）の幅を示した。93.6%の母親が「スマートフォン」を健康情報の情報源としており、14.5%の母親が「政府や自治体」を情報源としていた。45.9%の母親は「政府や自治体」あるいは「かかりつけ医」を情報源としてなく、それらの94.4%は「スマートフォン」を情報源としていた。母親が暮らしの「経済状況が良好」と考えることが、HLと正の関連を示した（オッズ比[95%信頼区間]=2.23[1.60-3.10]）。また、情報源として「家族」（1.45[1.11-1.90]）と「友人や知人」（1.37[1.07-1.77]）を利用すること、「スマートフォン」を信頼していること（2.00[1.19-3.34]）がHLと正の関連を示した。

〔結論〕 HLは主観的経済状況、家族や友人といった母親を取り巻くソーシャルキャピタル、情報源の信頼度と関連していた。政府や自治体の情報源としての利用率は極めて低く、その利用を高める工夫が必要である。スマートフォンを情報源とする母親が多く、適切な健康情報にアクセスできるコンテンツの充実が必要である。

### A. 研究目的

地域住民の健康増進のためには、適切な健康情報の提供や住民のヘルスリテラシー（HL）の向上が必要である<sup>1,2)</sup>。近年は父親の育児参加が増えているが<sup>3)</sup>、母親が育児において占める役割は大きい。本分担研究では、以上に述べた背景と先行研究<sup>4)</sup>から、『母親のHLが幼児の食生活などの生活習慣と関連する』という仮説を

考え、質問紙調査を用いたコホート研究によって検証をしている。昨年度の報告書では、研究計画と質問紙の回収を終えた市町の記述統計量を報告した。本年度は、ベースラインとする3～4か月児健診に参加した母親を対象とした、横断的な質問紙調査の結果を報告する。

### B. 研究方法

## 1. 対象者

調査地域は、愛知県内 A 保健所及び B 保健所管内の 10 市町とした。両保健所の管内地域は、空間的に隣接した位置関係にある。対象者は、2019 年 12 月から 2020 年 2 月に 3～4 か月児健診を受診した児の母親とした。

## 2. 調査項目

3～4 か月児健診の事前案内に無記名自記式質問紙調査用紙を同封し、対象者に回答を依頼した。調査項目は、母親の基本属性（年齢、世帯構成、学歴等）と主観的経済状況、健康情報の情報源と信頼度及び母親の HL などである（表 1）。母親に特化した HL 尺度はないため<sup>5)</sup>、Ishikawa らが開発した一般市民向けの伝達の・批判的 HL 尺度を使用した<sup>6)</sup>。この尺度は 5 項目の質問について、5 件法のリッカートスケールで回答を得た平均点で HL を評価する。

## 3. 統計解析

母親の HL は、中央値以下（低 HL 群）と中央値を超過した値（高 HL 群）の 2 水準に分類した。母親の勤務状況は「育児休業中」あるいは「働いていない」と回答した者を「就労なし」、それ以外を「就労あり」とした。主観的な経済状況は、「大変ゆとりがある」あるいは「ややゆとりがある」と回答した者を「経済良好」とし、「やや苦しい」あるいは「大変苦しい」と回答した者を「経済不良」とした。学歴は「中卒」あるいは「高卒」と回答した者を「低学歴」、短大・専門学校以降を「高学歴」とした。さらに、情報源の信頼度については、「全く信用していない」あるいは「あまり信用していない」と回答した者を「信頼なし」、「多少は信用している」あるいは「とても信用している」と回答した者を「信頼あり」とした。

HL とその他の項目との関連は Fisher の正確

確率検定で評価した。さらに、HL を従属変数とし、Fisher の正確確率検定で統計学的に有意な関連を示した項目を独立変数とした多重ロジスティック回帰分析を行い、調整済みオッズ比と 95%信頼区間を算出した。独立変数は、社会経済的因子のみ（Model 1）、社会経済的因子と情報源（Model 2）、社会経済的因子と情報源の信頼度（Model 3）とした。従属変数の対照カテゴリは「低 HL 群」とし、独立変数の対照カテゴリは主観的経済状況が「普通」、学歴が「低学歴」、情報源の利用は「利用なし」、情報源の信頼度は「信頼なし」とした。本研究のすべての解析は、有意水準を 5%未満に設定した。これらの分析は STATA Ver. 15.1 で行った。

（倫理面への配慮）

対象者には質問紙調査用紙と別途、本調査内容に関する説明文を配付し、その説明に基づく同意を取得したうえで回答を得た。説明文には、調査で得られた情報が個人を特定できない内容で統計処理されること、学術報告として発表される場合があること、調査目的以外の利用をしないこと等を含めた。本研究は、あいち小児保健医療総合センターと実践女子大学の倫理審査委員会からの承認を得て実施した。

## C. 研究結果

### 1. 対象者の特徴

調査期間の 3～4 か月児健診対象者は 1402 人で、1354 人の児が受診した（受診率 96.6%）。質問紙の回収数は 1159 件（回収率 85.6%）であり、23 件（すべての設問に無回答 3 件、児の性別不明 12 件、母の出産年齢不明 11 件、HL 無回答 6 件（重複あり））を除外した 1136 件を有効回答とした（有効回答率 98.0%）。

対象者の基本属性を表 2 に示した。母親の年齢は、15 歳から 45 歳までの範囲であった。社

会経済的因子では、母親の 90.1%が無職あるいは育児休業中であり、32.1%が高校以下の最終学歴と回答した。母親の 17.0%が「経済良好」、65.6%が「普通」、17.3%が「経済不良」に該当した。

対象者の HL 得点は中央値 3.8 で、1.0 から 5.0 の範囲をとっていた。対象者が利用する健康情報の情報源は、「スマートフォン」、「家族」、「友人や知人」の順に高かった。45.9% (521/1136 人) の母親が、「政府や自治体」と「かかりつけ医」のいずれも情報源としてなかった。また、これらの者が使用する健康情報の情報源は、「スマートフォン」が 94.4% (492/521 人)、「家族」が 61.8% (322/521 人)、「TV」が 57.8% (301/521 人) であった。

情報源の信頼度は、「かかりつけ医」、「家族」、「友人や知人」の順に高く、「政府や自治体」を信頼している者は 84.4% であった。情報源として「政府や自治体」を信頼していない 160 人が信頼する情報源は、「かかりつけ医」152 人 (95.0%)、「家族」149 人 (93.1%)、「友人や知人」139 人 (86.9%) の順に高値であった。

## 2. 単変量解析で評価した HL と社会経済的因子等との関連

母親の HL は、主観的経済状況や母親の学歴と関連していた (表 3)。母親の HL は「かかりつけ医」、「家族」、「友人や知人」、「PC」を情報源にすることとの関連がみられた。HL と関連がみられた情報源の信頼度は、「政府や自治体」、「友人や知人」、「新聞」、「PC」、「スマートフォン」、「雑誌」であった。

HL と母親の就労状況、児の性別や出生順位との間には関連性がみられなかった。

## 3. 多変量解析で評価した HL と社会経済的因子等との関連

HL を従属変数とした多重ロジスティック回帰分析を用いて、単変量解析で関連が認められた項目との関連性について検討した (表 4)。社会経済的因子のみを独立変数とした Model 1 では、「経済良好」が HL と正の関連を示した。社会経済的因子と情報源の利用を独立変数とした Model 2 では、「経済良好」や情報源として「家族」と「友人や知人」を利用することが HL と正の関連を示した。さらに、社会経済的因子と情報源の信頼度を独立変数とした Model 3 では、「経済良好」や、「スマートフォン」を信頼していることが HL と正の関連を示した。

## D. 考察

本研究では、「経済良好」つまり暮らしにゆとりがあると感じている母親は HL が高く、教育水準が高い母親は HL が高い傾向がみられた。この結果を支持するものとして、海外における既報では、HL は教育水準や経済状況の高さに依存することが報告されている<sup>7)</sup>。しかし、市町はすべての住民に情報を提供する必要があるため、母親によって HL のレベルが異なることだけでなく、HL を左右する因子があることを考慮する必要がある。また、対象者の約 15% は「政府や自治体」を健康に関する情報源として信頼していないが、それらのほとんどは「かかりつけ医」を信頼していた。市町としては、住民に情報源として信頼されるよう改善するとともに、医療機関との連携によって地域の健康増進を図ることが望まれる。

本研究では、多くの母親が「家族」、「友人や知人」を情報源としており、それらを信頼していた。さらに、母親が「家族」あるいは「友人や知人」を情報源とすることは、HL の高さに関連していた。この結果は、母親のソーシャル・キャピタルが豊かであることが、HL の高さに関連することを示唆している。また、本研究で

用いた HL の指標は、意志決定能力も反映している。行動変容ステージモデルでは、自己解放や援助関係が行動変容に必要とされている。従って、母親に支援的に関わる人的環境が、意思決定を高めることが推察される。

本研究の対象者の約半数は、「政府や自治体」あるいは「かかりつけ医」を健康に関する情報源としておらず、それらの多くが「スマートフォン」を情報源としていた。しかし、スマートフォンからの三次情報の質は必ずしも保障されない<sup>8, 9)</sup>。この様な課題に対して本研究班では、母子保健に関する情報を集約した「知識」データベースの構築を開始している。一方で、本研究では、情報源として「スマートフォン」を信頼している母親は、HL が高かった。他のメディアと比較して、スマートフォンは自ら情報の取捨選択が可能な特徴がある。本研究で用いた HL の評価は主観的な回答であることから、情報の利活用に関する自己効力感の高さが、HL 得点に反映した可能性が推察される。

本研究では、我が国の一部の地域を対象としており、得られた結果を一般化することはできない。また、HL と健康水準や健康行動との関連性については、次年度以降に検討する予定である。本研究で使用した質問項目には、健康情報を信頼あるいは信頼しない理由を明らかにする項目は含まれていない。また、スマートフォンを健康情報とする者が、実際に健康情報を適切に判断できているかは明らかではない。これらの点については、さらに検討が必要である。

## E. 結論

母親の HL に個人差が認められ、HL は主観的経済状況、母親を取り巻くソーシャルキャピタル、情報源の信頼度と関連していた。政府や自治体の情報源としての利用率は極めて低く、その利用を高める工夫が必要である。スマートフ

オンを情報源とする母親が多く、適切な健康情報にアクセスできるコンテンツの充実が必要である。

## 【参考文献】

- 1) Sørensen K, *et al.* Health literacy and public health: a systematic review and integration of definitions and models. *BMC Public Health* 2012; 12: 80.
- 2) Tang KC, *et al.* Policy and partnership for health promotion – addressing the determinants of health. *Bulletin of the World Health Organization* 2005; 83: 884.
- 3) 「健やか親子21（第2次）」中間評価を見据えた調査研究事業報告書. 平成30年度 子ども・子育て支援推進調査研究事業 「健やか親子21（第2次）」中間評価を見据えた調査研究 2019.
- 4) 佐々木溪円、他. 幼児期の甘い間食摂取の習慣化に関する乳幼児健診の問診項目を活用した分析. *日本公衆衛生雑誌* 2018; 68: 389.
- 5) 多田美由貴、他. 母親のヘルスリテラシーを測定している尺度と関連要因に関する文献検討. *The Journal of Nursing Investigation* 2019; 16:1-9.
- 6) Ishikawa H, *et al.* Developing a measure of communicative and critical health literacy: a pilot study of Japanese office workers. *Health Promotion International* 2008; 23: 269-274.
- 7) Lastrucci V, *et al.* Health literacy as a mediator of the relationship between socioeconomic status and health: A cross-sectional study in a population-

based sample in Florence. PLoS One.  
2019; 14: e0227007.

- 8) 大島裕明、他. Web 情報の信憑性. 情報の科学と技術 2011; 61: 2-7.
- 9) 岸本桂子、他. がん患者を対象とした web サイトの健康食品情報についての研究. 薬学雑誌 2010; 130: 1017-1027.

## **F. 研究発表**

### **1. 論文発表**

なし

### **2. 学会発表**

なし

## **G. 知的財産権の出願・登録状況**

### **1. 特許取得**

なし

### **2. 実用新案登録**

なし

### **3. その他**

なし

表 1. 質問紙調査項目

---

• 母親の基本属性
出産年齢、同居者
就業状況（選択肢：常勤、非常勤、自営業、内職、育児休業中、無職、その他）
最終学歴（選択肢：中学、高校、短大・専門学校、大学・大学院、その他）
• 児の基本属性
性別、出生日、出生順位、妊娠期間、出生体重
• 母親のヘルスリテラシー <sup>†</sup>
質問文： お母さんは、もし必要になったら、病気や健康に関連した情報を自分自身で探したり利用したりすることができると思いますか。1) ~5) について、最もあてはまる選択肢を選んでください。
1) 新聞、本、テレビ、インターネットなど、いろいろな情報源から情報を集められる。
2) たくさんある情報の中から、自分の求める情報を選び出せる。
3) 情報を理解し、人に伝えることができる。
4) 情報がどの程度信頼できるかを判断できる。
5) 情報をもとに健康改善のための計画や行動を決めることができる。
選択肢：全くそう思わない、あまりそう思わない、どちらでもない、まあそう思う、強くそう思う
• 母親が用いる健康に関する情報源
質問文：健康に関する情報源はどれですか（いくつ選んでもかまいません）。
選択肢：政府や自治体、かかりつけ医、家族、友人や知人、テレビ、新聞、パソコン（PC）、スマートフォン、雑誌、その他
• 健康に関する情報源の信頼度
質問文：健康に関する情報源として、下記の項目をどのくらい信用していますか。
対象：政府や自治体、かかりつけ医、家族、友人や知人、テレビ、新聞、パソコン（PC）、スマートフォン、雑誌
選択肢：全く信用していない、あまり信用していない、多少は信用している、とても信用している
• 主観的経済状況
質問文：現在の暮らしの経済的な状況を総合的にみて、どう感じていますか。
選択肢：大変ゆとりがある、ややゆとりがある、普通、やや苦しい、大変苦しい

---

<sup>†</sup> Communicative and Critical Health Literacy (CCHL:伝達の・批判的ヘルスリテラシー尺度)

表 2. 対象者の基本属性(n(%))

<u>出産年齢<sup>†</sup></u>	31±5	<u>情報源の利用</u>	
<u>母親の就業状況</u>		政府や自治体	165 ( 14.5 )
常勤	17 ( 1.5 )	かかりつけ医	564 ( 49.6 )
非常勤	39 ( 3.4 )	家族	776 ( 68.3 )
自営業	43 ( 3.8 )	友人や知人	652 ( 57.4 )
内職	8 ( 0.7 )	テレビ	618 ( 54.4 )
育児休業中	485 ( 42.7 )	新聞	39 ( 3.4 )
無職	539 ( 47.4 )	PC	83 ( 7.3 )
その他	3 ( 0.3 )	スマートフォン	1063 ( 93.6 )
無回答	2 ( 0.2 )	雑誌	170 ( 15.0 )
<u>母親の最終学歴</u>		その他	6 ( 0.5 )
中学	47 ( 4.1 )	<u>情報源の信頼度<sup>‡</sup></u>	
高校	318 ( 28.0 )	政府や自治体	959 ( 84.4 )
短大・専門学校	362 ( 31.9 )	かかりつけ医	1118 ( 98.4 )
大学・大学院	409 ( 36.0 )	家族	1077 ( 94.8 )
その他	47 ( 4.1 )	友人や知人	1048 ( 92.3 )
<u>主観的経済状況</u>		テレビ	966 ( 85.0 )
大変ゆとりがある	42 ( 3.7 )	新聞	942 ( 82.9 )
ややゆとりがある	151 ( 13.3 )	PC	907 ( 79.8 )
普通	745 ( 65.6 )	スマートフォン	945 ( 83.2 )
やや苦しい	174 ( 15.3 )	雑誌	923 ( 81.3 )
大変苦しい	23 ( 2.0 )		
無回答	1 ( 0.1 )		
<u>児の基本属性</u>			
男児	616 ( 54.2 )		
第1子	465 ( 40.9 )		
妊娠週数(週) <sup>†</sup>	38±2		
出生体重(g) <sup>†</sup>	3002±390		
<u>児の同居家族</u>			
母親	1126 ( 99.1 )		
父親	1101 ( 96.9 )		
祖父母	273 ( 24.0 )		
兄弟姉妹	650 ( 57.2 )		
その他	30 ( 2.6 )		

<sup>†</sup> 値は平均±標準偏差を示す。<sup>‡</sup> 「多少は信用している」あるいは「とても信用している」と回答した者を示す。

表 3. ヘルスリテラシーと社会経済的因子、情報源とその信頼度

	低 HL		高 HL		P
	n	%	n	%	
<u>出産年齢</u> <sup>†</sup>	31±5		31±5		0.525
<u>母親の就業状況</u> <sup>‡</sup>					
	就労なし	528 91.7	496 88.6		0.088
	就労あり	47 8.2	63 11.3		
	無回答	1 0.2	1 0.2		
<u>主観的経済状況</u> <sup>‡</sup>					
	経済良好	65 11.3	128 22.9		<0.001
	普通	397 68.9	348 62.1		
	経済不良	114 19.8	83 14.8		
	無回答	0 0.0	1 0.2		
<u>最終学歴</u>					
	低学歴	202 35.1	163 29.1		0.036
	高学歴	374 64.9	397 70.9		
<u>情報源の利用</u>					
	政府や自治体	75 13.0	90 16.1		0.153
	かかりつけ医	267 46.4	297 53.0		0.028
	家族	363 63.0	413 73.8		<0.001
	友人や知人	301 52.3	351 62.7		<0.001
	テレビ	315 54.7	303 54.1		0.858
	新聞	23 4.0	16 2.9		0.330
	PC	33 5.7	50 8.9		0.040
	スマートフォン	536 93.1	527 94.1		0.545
	雑誌	87 15.1	83 14.8		0.934
	その他	3 0.5	3 0.5		0.153
<u>情報源の信頼度</u> <sup>†</sup>					
	政府や自治体	469 81.4	490 87.5		0.010
	かかりつけ医	565 98.1	553 98.8		0.773
	家族	536 93.1	541 96.6		0.059
	友人や知人	520 90.3	528 94.3		0.021
	テレビ	480 83.3	486 86.8		0.087
	新聞	462 80.2	480 85.7		0.015
	PC	426 74.0	481 85.9		<0.001
	スマートフォン	446 77.4	499 89.1		<0.001
	雑誌	447 77.6	476 85.0		0.007

<sup>†</sup>値は平均±標準偏差を示す。<sup>‡</sup>「就労なし」は「育児休業中」あるいは「無職」、主観的経済状況が「経済良好」は「ややゆとりがある」あるいは「大変ゆとりがある」、「経済不良」は「やや苦しい」あるいは「大変苦しい」、信頼度は「多少は信用している」あるいは「とても信用している」を示す。



表 4. ヘルスリテラシーと社会経済的因子、情報源との関連

独立変数	Model 1		Model 2		Model 3	
	オッズ比[95%信頼区間]	P	オッズ比[95%信頼区間]	P	オッズ比[95%信頼区間]	P
<b>社会経済的因子</b>						
主観的経済状況	2.23 [1.60 - 3.10]	<0.001	2.21 [1.58 - 3.09]	<0.001	2.34 [1.65 - 3.31]	<0.001
経済良好						
経済不良	0.85 [0.62 - 1.17]	0.318	0.89 [0.64 - 1.22]	0.464	0.86 [0.62 - 1.20]	0.390
学歴	1.27 [0.99 - 1.64]	0.064	1.24 [0.96 - 1.60]	0.104	1.27 [0.97 - 1.66]	0.084
<b>情報源の利用</b>						
かかりつけ医			1.20 [0.94 - 1.52]	0.142		
利用あり						
家族			1.45 [1.11 - 1.90]	0.007		
利用あり						
友人や知人			1.37 [1.07 - 1.77]	0.013		
利用あり						
PC			1.35 [0.84 - 2.16]	0.219		
利用あり						
<b>情報源の信頼度</b>						
政府や自治体					1.31 [0.89 - 1.91]	0.167
信頼あり						
友人や知人					1.24 [0.75 - 2.05]	0.407
信頼あり						
新聞					1.06 [0.68 - 1.64]	0.797
信頼あり						
PC					1.43 [0.86 - 2.38]	0.165
信頼あり						
スマートフォン					2.00 [1.19 - 3.34]	0.009
信頼あり						
雑誌					0.86 [0.56 - 1.33]	0.504
信頼あり						

独立変数：Model 1、社会経済的因子と情報源の利用；Model 2、社会経済的因子と情報源の利用；Model 3 は社会経済的因子と情報源の信頼度

対照：主観的経済状況、「普通」；学歴、「高校以下」；情報源の利用、「利用なし」；情報源の信頼度、「信頼なし」